

腫あるいはFNHではなく、診断困難な症例であった。一方、良性結節の診断において、Feridex-MRIは、T2WIでその良性・悪性を、PWIでその局在を明確にできる可能性を示唆する1例でもあった。

### 29. 肝細胞癌類似の画像所見をとった、限局性結節性過形成の1例

山口和也, 仲野敏彦, 野本裕正  
瀬田敏勝, 小山秀彦, 長門義宣  
安原一彰, 伊藤文憲 (船橋中央)  
豊沢 忠 (同・外科)  
近藤福雄 (同・病理)

症例は53歳、男性。非B非C硬変肝、AFP、PIVKA-II陰性。画像診断上、S8、20mmのHCC。フェルモキシデスMRIにては中心部の広い範囲がエンハンスされ、中心に中分化型肝癌を伴った、高分化型肝癌と診断。切除後の病理診断の結果はFNH。免疫染色の結果、中心癥痕とその周囲の広い範囲にクッパー細胞の減少した部位があり、この部位は、術前に中分化型肝癌と診断した範囲とほぼ一致した。

### 30. Angio CTによる肝細胞癌の診断

○安藤 健, 隆 元英, 日野眞一  
黒澤俊介, 山田博之, 五十嵐正彦  
(国立習志野)

1997年2月から1998年12月の期間にAngio CTを行なったのべ21症例の、病理学的あるいは臨床的に肝細胞癌と診断した34病変について、Angiography, Two-phase helical CT, 腹部超音波との比較・検討を行なった。Angio CTで描出された34病変のうちTwo-phase helical CTでは8病変(24%)は描出されていなかった。腹部超音波では10病変(29%)は描出されていなかった。また、Two-phase helical CT, 腹部超音波の両方で描出されていないものは5病変(15%)であった。

### 31. 当センターにおける非B非C肝細胞癌の検討

新保 泉, 炭田正俊, 若林芳敏  
間山素行 (県がんセンター)  
傳田忠道 (同・臨床検査部)  
和田勝則 (斉藤労災)

当センターにおける266例の肝細胞癌症例のうち、非B非C型22例について検討した。非B非C肝細胞癌は平均55歳と若く、肝硬変合併45%と少ないことなど、B型に近いパターンを呈していたが、5年生存率は43%とC型と同様に低値を示した。

非B非C肝細胞癌は偶発的に発見されることがほと

んどであり、特に若年者では進行した状態で発見されることが多い。早期発見のためにも成因に関するさらなる検討が望まれる。

### 32. 当院における門脈腫瘍塞栓を伴った(VP3)HCC症例の検討

高梨秀樹, 金田 晁, 内海勝夫  
篠崎文信, 小林千鶴子, 武者広隆  
(国立千葉)  
吉田孝宣 (国療下志津)  
御園生正紀 (千葉県立衛生短大)

抗癌剤の投与のみにて門脈腫瘍塞栓の消失をみたVP3肝細胞癌の3例を報告した。1例は、MIT16mgの全身化学療法2回施行後、画像上腫瘍の縮小と右1次分枝の塞栓の消失を認め、その後集学的治療にて7年4カ月生存中。2例目は、MMC18mg動注にて門脈本幹の腫瘍塞栓が消失し2年4カ月生存した。3例目は、MMC16mg ADM30mg動注後、腫瘍の著明な縮小と門脈本幹の腫瘍塞栓が消失し2年生存中。

### 33. 千葉県富浦・丸山町における肝臓住民検診の現況

金 晋年, 佐藤悟郎, 原 久弥  
青木 謹 (安房医師会病院)  
大藤正雄 (千大)

富浦町における住民肝臓検診の現況について報告する。富浦町の住民検診でのHCV抗体陽性率は17.2%と高率で、陽性者の管理検診により6例の肝臓癌が発見された。肝癌発症群では非発症群と比べ種々の肝機能異常を認めた。検診未受診者に発症したHCC例において治療困難例や短期間で死亡例を認め、1年ごとの経過観察群でも進行癌症例を認めた。今後はハイリスク者に対する適切な管理検診を行うことが重要と考えられた。

### 34. C型慢性肝疾患における高感度PIVKA-IIと背景肝障害との関係-AFPとの比較-

須永雅彦, 三上直登, 大島 忠  
宮城三津夫, 小林康弘, 平井愛山  
(県立東金)

対象は、C型慢性肝疾患60例。方法は、PIVKA-IIを、15mAU/ml未満と以上、AFPを20ng/ml未満と以上とに分け、各群で血液・生化学所見とChild分類を比較、検討した。

結論。PIVKA-IIは、背景肝障害の程度に影響を受けず、安定性に優れていた。AFPは、比較的影響を受け、安定性に乏しかった。慢性肝疾患の経過観察の際、相